



第2回 知識リーダー育成 オープンユニバーシティのご案内

～思いを持って未来を創るリーダーを育てる～

知識リーダーシップ総合研究所

The Institute of Knowledge Leadership Studies

協力：横浜市

協賛：株式会社富士通エフサス

知識リーダーシップ総合研究所

【知識リーダーシップ総合研究所とは】

知識リーダーシップ総合研究所（IKLS）は、知識経営の観点から、日本経済の今後の躍進を担うリーダー、リーダーシップに関する総合的な研究を行うために設立しました。2009年より多摩大学研究機構内の組織として立ち上げ、2013年から社団法人化をして活動を進めていきました。

- ・名称：一般社団法人知識リーダーシップ総合研究所
- ・所長：徳岡晃一郎（多摩大学大学院教授）
- ・シニアディレクター：紺野登（多摩大学大学院教授）

【これからのリーダーに求められるものは】

不確実性が増し、社会不安が増大する中、明るい未来を描き、思いを持って未来を創るリーダーが求められています。また自社のこれまでの常識を超えるような大きなイノベーションを起こせるリーダーが求められています。

ビジョンやイノベーションが求められる時代のリーダーは、自社の利益や競合をどう打ち負かさかを考える「How to」型のリーダーではなく、明確な価値観や、それに基づいた未来像を描ける人材です。そして多様性を活かし、対話から新たな解を導き出せる人材です。

知識リーダー育成オープンユニバーシティとは？

実践の社会課題解決提案を通じた異業種交流型人材育成プロジェクト

- 知識リーダー育成オープンユニバーシティはオープンな場に背景の異なるリーダー候補が集まり、互いの思いや哲学について議論すると同時に、現実の社会問題解決案の作成を通じて高い視座を身につけようというプロジェクトです。

第1回は、3つの提案中2つの提案が横浜市の政策に反映される成果

- 第2回となる今回も、引き続き横浜市のご協力をいただき、現実の公共課題に対する解決案を考えていきます。第1回の提言では実際に横浜市の政策を動かすという大きな成果を生み出しました。

フューチャーセンターの活用を通じた、実践的リーダーシップ開発

- オープンユニバーシティという経験を通じ、単に商品、サービスを描くのではなく、地域住民の幸せや、社会システム全体を考え、ビジョンを描く力を身につける事を旨とするとともに、様々な立場の人たちを巻き込み、動かすリーダーシップを身に付けます。
- この学習スタイルの着想は、I K L Sでもう一つの研究プロジェクトとして取り組んでいるフューチャーセンターの実践活用と言えます。

フューチャーセンターの活用を通じた、実践的リーダーシップ開発

- 立場の異なるリーダー候補が協働して社会問題解決に取り組むことで新たな時代のエリート、日本の明るい未来を創るリーダー育成を行っていきたいと考えています

知識リーダー育成オープンユニバーシティの構造

- 様々なバックボーンを持った多様性の高い次世代リーダーが集まり、テーマオーナーから提示された高度な課題について、互いの知を終結し、研鑽する事で最善解を導き出します。
- 知識リーダーとして必要な幅広い視点や高い視座を獲得するとともに、多様性の中での議論を通じ、自分の哲学について見つめ直していきます。



参加者がチャレンジするテーマ

- ・「横浜市」に横たわる様々な課題と機会を捉え、各参加企業の知恵を結集することでイノベーションを起こすことを目指します。
- ・複雑なステークホルダーを意識して、根本的な街作りについて考えていきます。

■ 提言テーマ ■ *テーマはスタート時点で変更になる可能性もあります

- ①横浜市における介護予防・日常生活支援総合事業の具体的展開に向けて
- ②「オープンデータ」の利活用を通じたオープンイノベーションの実現に向けて
- ③横浜市における文化芸術戦略を通じた街づくりに向けて

オープンユニバー
シティで学ぶ新た
な知識

×

多様な参加者の
視点

多様な企業のリ
ソース

=

イノベーション

オープンユニバーシティで得られるもの

■ 共通善を考える高い視座と思考力

現実の社会課題と言うテーマに触れ、真に重要な目的を徹底的に考えるプロジェクトとなります。未来の社会がどうあるべきかを徹底的に考え尽くすことを通じ、リーダーとして思考すべき高い視座が強化されます。

■ 企業を超えたリーダーのネットワーク

これからのリーダーは単に商品、サービスを生み出すだけでなく、様々な企業がコラボレーションしてより高度なソリューションを提供していくことが求められます。参加企業を代表するリーダー同士のネットワークを構築することができます。

■ ダイバーシティを活かす力

バックボーンの異なるメンバーが集まり、ステークホルダーが多様な課題についての提言を検討することで、多様性を活かしていくために必要なマインドセット、コミュニケーション能力などが強化されます。

学習ポリシー

■ 知識リーダーの育成に向けて

- ・未来を創るリーダーに必要なもの（知識リーダー v s M B Aホルダー）
 - ・ビジネススキルではなく、経営哲学の確立を目指します
 - ・分析力ではなく、未来を洞察するための視座、視点の確立を目指します
 - ・戦略立案ではなく、実行する力の確立を目指します

【知識対話会】

哲学者や実践家の外部講師を招き、今後の世界がどうなるか、どうあるべきかについて対話をぶつけ合います。

ビジネスリーダーとして、どのような社会を作り出すかについての視座を深めていきます。

【課題提案】

横浜市から設定されたテーマについて、解決策をまとめていきます。

新たに学んだ視点やフィールドワークの結果、各社のリソースを織り交ぜながら都市の問題解決に向けたアクションを考えます。

【フィールドワーク】

現地のフィールドワークを行い、課題への参与観察を行います。

現地現物の理解し、実践知の獲得プロセスを学習します。

体制と実施概要

■プロジェクトリーダー兼ファシリテーター

・知識リーダーシップ総合研究所

所長 徳岡晃一郎（多摩大学大学院教授）

ディレクター 片岡裕司

・プログラムアドバイザー：紺野登

（知識リーダーシップ総合研究所 シニアディレクター）

（多摩大学大学院 教授）

■実施概要

・プログラム：異業種交流型アクションラーニング

・キックオフ 2015年7月2日（～2015年12月迄を予定）

・募集：10～20社程度

・費用：1社1名 540,000円（消費税込）

・対象：ミドルマネジャー（課長層）、リーダー（係長）クラスを想定

プログラム

■プログラムスケジュール（案）

*プログラム内で実施内容の入れ替えなどの可能性があります。あります

*下記以外に提言作成に向けて自主検討会が必要になります



日時		概要
7月2日	木 10時～18時 (～19:30)	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、イントロダクション(10時00分～10時15分)</u> ・本プログラムの趣旨説明 <u>2、Future Centerとは何か?(10時15分～12時15分)</u> ・担当講師:紺野登(多摩大学大学院教授) ・イノベーションとFuture Center ・みなとみらいInnovation & Future Centerのご紹介 <u>3、MBB:思いを持ったリーダーになる(13時30分～18時00分)</u> ・担当講師:徳岡晃一郎(多摩大学大学院教授) (概要)これからの未来を創るリーダーには何が必要か?新たな知を創造するリーダーになるための型を学びます。MBB(Management by Belief)という概念を理解し、自分自身のリーダーシップ開発に役立てる。 <u>4、ミニ懇親会(会場にて)</u>
8月19日	水 10時～18時	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、知識対話会①:新たな知に触れる(10時00分～12時00分)</u> ・担当講師:徳岡晃一郎 ・特別講師:小林正弥氏(千葉大学教授) (概要)公共哲学の第一人者であり、マイケル・サンデル教授とも交流のある小林教授を講師に迎え、正義、公共善とは何か?を議論します。皆さんと一緒にただし目的とは何かについて議論を深めたいと思います。 <u>2、課題オリエンテーション(13時00分～16時00分)</u> (概要)テーマスポンサーである横浜市様から、今回の発表に向けての課題についてご説明いただきます。これまでの取り組みや今後の課題などを確認していきます。 <u>3、知識創造の実践①(課題解決の方法論を学ぶ)(16時00分～18時00分)</u> ・担当講師:河野龍太氏(インサイトリンク代表) (概要)新たなイノベーションツールとして注目される、ビジネスモデルキャンパスを理解し今回の提案に具体的に適応しながら学んでいきます。
10月5日	月 10時～18時	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、知識対話会②:新たな知に触れる(10時00分～12時00分)</u> ・担当講師:徳岡晃一郎 ・特別講師:山崎亮氏(株式会社studio-L代表) (概要)人と土地の繋がり方を模索し、新たなスタイルで街をつくる「コミュニティデザイナー」。NHKプロフェッショナルでも取り上げられ話題の山崎亮様を講師に迎え、こからの街づくりについて議論を深めたいと思います。 <u>2、フィールドワーク(13時30分～18時00分)</u> (概要)テーマスポンサーである横浜市様と現場視察を行います。課題の現地現物に触れ、課題の本質を感じ、解決に向けてイメージを高めます。
11月2日	月 10時～18時	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、知識対話会:新たな知に触れる(10時00分～12時00分)</u> ・担当講師:徳岡晃一郎 ・特別講師:橋本大也氏(多摩大学大学院教授、デジタルハリウッド大学大学院教授) (概要)日本のビックデータ推進の第一人者、橋本大也教授をゲストに迎え、ITの可能性を考えると共に、ITを通じた共通善の最大化について考えていきたいと思います。 <u>2、知識創造の実践②(課題解決の方法論を学ぶ)(13時00分～18時00分)</u> ・担当講師:河野龍太(インサイトリンク代表) (概要)ビジネスモデルキャンパスを深く理解し、新たなモデル構築を行います。
11月17日	火 10時～18時	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、中間発表会(10時00分～12時00分)</u> ・担当講師:徳岡晃一郎 (概要)発表内容の中間共有を行います。お互いの建設的な批判を通じてより良い発表に向けてのブラッシュアップを行います。 <u>2、ワークショップタイム(13時00分～18時00分)</u> ・発表に向けてグループ討議を進めます。
12月21日	月 10時～15時 15時～18時 (～19:35)	<ol style="list-style-type: none"> <u>1、ワークショップタイム(10時00分～15時00分)</u> ・発表に向けてグループ討議を進めます。 <u>2、最終発表会(15時00分～18時00分)</u> ・テーマスポンサー、横浜市様への最終提案発表となります。 <u>3、懇親会</u>

講師陣の紹介



徳岡晃一郎

知識リーダーシップ総合研究所 所長 / 多摩大学大学院 教授
東京大学教養学部卒業、オックスフォード大学経営学修士。日産自動車を経て、現在はフライシュマン・ヒラード・ジャパンにてパートナー・シニアバイスプレジデント。



紺野登

同研究所 シニアディレクター / 多摩大学大学院 教授
博報堂を経て、現在KIRO株式会社代表、博士（経営情報学）。京都工芸繊維大学新世代オフィス研究センター(NEO)特任教授。同志社大学ITEC(技術・企業・国際競争力研究センター) 客員フェロー、東京大学i.schoolエグゼクティブ・フェロー。



河野龍太

株式会社インサイトリンク 代表 / 多摩大学大学院教授
早稲田大学法学部卒業、英国ウォーリック大学経営大学院修MBA) 博報堂、博報堂ブランドコンサルティングを経て、株式会社インサイトリンク設立、代表取締役社長。博報堂DYホールディングス顧問（2006-2008）
専門は、マーケティング戦略、戦略イノベーション、ビジネスモデル構築。

第1回オープンユニバーシティの成果

第1回のオープンユニバーシティでは、

- ①横浜がアーティスト・クリエイターのビジネス拠点となるためには？
- ②2020年オリンピック・パラリンピック東京大会をにらんだ、海外からの誘客に向けた戦略のあり方？
- ③全国・海外から注目を集める文化芸術戦略のあり方？

の3テーマにチャレンジしました。特に、「全国・海外から注目を集める文化芸術戦略のあり方」についての提言から創造された「クリエイティブチルドレン・横浜」のコンセプトは大きく横浜市の方針に反映されることになりました。



「クリエイティブ・チルドレン横浜」

- 市民（地域コミュニティ）、学校、行政、企業、都市インフラ一体で子どもの創造性を育む取り組みを展開
- 横浜育ちの子ども達（＝クリエイティブ・チルドレン）が地元、そして世界で活躍、文化・芸術、創造産業を牽引
- クリエイティブ・チルドレンが、世界中の注目を集め、新しい文化芸術・創造都市横浜のブランドを確立



横浜市の可能性

- 子育て支援の充実：待機児童ゼロの取り組み
- インフラ・コンテンツの充実：美術館、ホール、各イベント
- 国際都市の魅力：開国の地、MICE、
- 企業の充実：グローバル企業、老舗企業（キタムラ）
- 行政と企業のつながり：共創の推進
- 市民と横浜のつながり：地元愛（ハマっこ）

横浜なら産官学民一体の取り組みを実現できる

3-1 地元企業参加型のオープンプログラムの推進

①企業コラボレーションで横浜から発信する

スーツ製造・販売 × ワークスタイルの開発

企業の可能性を模索
・服装がワーカースの生産性をあげる・世界へ発信できるブランドとは？

共創型のモデルをつくる。

第1回の参加企業と参加者の声

【第1回参加企業】

株式会社本田技術研究所／株式会社乃村工藝社／株式会社公文教育研究会
株式会社構造計画研究所／株式会社富士通エフサス／薬樹株式会社
コクヨマーケティング株式会社／株式会社日建設計
日本ユニシス株式会社／西尾張シーエーティーヴィ株式会社

【参加者の声】



株式会社本田技術研究所
林 明宏様

株式会社本田技術研究所 林明宏様

様々な業種の人と意見交換をする中で、新たな視点や切り口を得られ、自分自身についても気づきがありました。グループワークでは、テーマに関係する様々な方々のお世話になりましたが、突然のお願いにも関わらず、熱心に協力して頂きました。共通善を志し、自分たちの思いが伝われば、多くの人を動かし巻き込めることを実感しました。大事なのは個々の思いをそれらをつなげる事ということが体験を通じて学ぶことができました。

今回の異業種の方との議論、あるいは都市づくりという普段の業務とは異なる視点・視座が求められるテーマに取り組む事で、あらためて「自分は何者か、何をしたいのか」について考えさせられました。こうした自分の想いに磨きをかけるためにも、会社や仕事という枠組みを離れた活動も大事であると感じました。



日本ユニシス株式会社
吉村 直樹様

日本ユニシス株式会社 吉村 直樹様

今までの仕事の延長線上では【まったく接点の無かった方】と、社会問題の解決、ビジネスモデルの検討など、【まったく新しい領域の事】を検討したことによって、本当に得るものが大きかったと感じています。

色々な方へのヒアリング、現地調査、ビジネスモデルキャンバスによる整理、メンバとのディスカッションなど、本当に刺激的なわくわくする経験ができたと思います。今後、この経験を持ち帰り、広い視野を持って日々精進していきます。